

# 平成29年度 学校マネジメントシート(学校評価)

学校名 ( 飯野高等学校 定時制 )

平成30年3月5日

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>充実した多文化共生教育やキャリア教育をとおして、多様な学習ニーズを有する生徒たちが自信と誇りをもって社会で生きる力を養成する学校。</li> <li>生徒たちが将来、社会の構成員として生活し、これからの新しい社会を創造していく力を育むことのできる学校。</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から大きな声で挨拶をし、時間や期限を守り、適切な言葉遣いができるなど、社会人として必要な素養を習得することができる生徒。</li> <li>漢字能力、計算能力、英語能力や外国人生徒については日本語能力など、社会生活を営むうえで必要な基礎学力を習得することができる生徒。</li> <li>自他を大切にす豊かな人権感覚と自己有用感を持ち、人間関係形成能力の高い生徒。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>高い専門知識・能力と指導力を有し、情熱を持って教育活動に取り組み、生徒の意欲や向上心を喚起できる教職員。</li> <li>学習指導や生徒指導等の教育活動において、ねばり強く生徒に接し、理解に努め、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応できる教職員。</li> <li>豊かな人権感覚を持ち、命の大切さを様々な学習活動の場で生徒に教え導くことのできる教職員。</li> <li>新たな取組に積極的にチャレンジする向上心を持ち、他の教職員と協力して学校経営や教育内容の向上を目指すことができる教職員。</li> </ul>

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>生徒:学力向上(日本語能力を含む。)と進路希望(進学・就職)の実現。                  保護者:学校からの丁寧な情報発信や連絡によって学校と家庭が連携した子育て。                  地域社会:定職を持ち地域社会の担い手なる人材の育成。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>中学校:不登校経験者や外国人生徒など多様な生徒の受け入れと中学高校間の連携強化。                  事業所:基礎学力の向上と社会人マナーの習得。</p>	<p>中学校:目的意識を持ち、学校生活を適正に行うことのできる生徒の育成。                  事業所:在学中からの雇用と卒業時の正規雇用への切り替え。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>①進路実現に向けての生徒の意識の向上を図るには家庭との連携を取りながら進めることが効果的である。                  ②地域の活動に生徒を参加させることで、生徒たち自身の自尊感情も育つ。                  ③生徒が自分で学習の達成度をチェックするしかけを作り、自分で自分をほめることをさせていくと生徒たちに元気が出てくる。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>定時制設立から7年目を迎え、教職員の不断の努力によって全体として落ち着いたよい雰囲気になってきている。一方で多様なニーズや課題を抱える生徒は増加傾向にある。さらなる発展に向けて以下を推進することが課題である。</p> <p>① 社会生活を営むうえで必要な規範意識を確立させること。</p> <p>② 適切な人間関係を形成する力、自分の置かれている状況をふまえて他者と協働できる力を育成し、自尊感情を高めること。</p> <p>③ 社会生活を営むうえで必要な基礎学力の定着及び日本語能力の向上に取り組むと共に、文化的なちがいを認め合い地域社会の構成員として共に生きる力を培うこと。</p> <p>④ 進路保障や生徒指導の充実のために関係機関との連携をいっそう強化し、個々の進路希望を実現させること。</p>
	学校運営等	<p>ますます多様化する生徒のニーズや課題に対応するために適切な情報把握と情報共有が必要である。生徒の学習意欲や基礎学力の向上のために、教員の授業力など資質向上にいっそう努める必要がある。</p> <p>① 生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整えること。</p> <p>② 生徒の多様なニーズに応えるため、職員の指導力、授業力などの資質向上に努めること。</p> <p>③ 教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間の縮減や執務環境整備に取り組むこと。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>① 授業規律や出席を重んじるとともに、学習意欲を向上させ、安心して登校し落ち着いて学習に取り組むことができるよう生活・学習の両面から支援し、学力の向上を図る。</p> <p>② 自他を尊重する人権意識と自己有用感を高め人間関係形成能力を育成する。</p> <p>③ 進路保障の充実を図る。特に外国人生徒の進路保障に向けて一層強化する。</p> <p>④ 特別支援体制の充実や個に応じた生徒指導を推進するために外部との連携を取りながら効果的な支援体制を構築する。</p> <p>⑤ 地域教育力の導入及び生徒が地域や小中学生と交流を行うなど、地域に目を向けさせ、地域に貢献できる人材を育成する。</p>
学校運営等	<p>① 生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整えるために、適切な情報管理と生徒・保護者のニーズの把握を行うと共に、生徒・保護者・地域への情報提供を推進して定時制生徒への理解と協力を深める。</p> <p>② 生徒の多様なニーズに応えるため、JSLカリキュラムや特別支援教育に関する研修等を推進し教員の資質向上に努める。</p> <p>③ 生徒の学習意欲や学力の向上のために相互参観や研修を行い、授業力向上を推進する。</p> <p>④ 教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間の縮減や執務環境整備に取り組む。</p>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
① 授業規律の確立、学習意欲の向上、安心して学習に取り組むことができるための生活・学習の両面からの支援、学力の向上のための取り組み (生徒指導) (保健指導) (学習指導)	(1) 規範意識の確立 ○活動指標:校内、校外の巡回指導を毎日実施 ○成果指標:問題行動による特別指導件数年間 15 件以下  (2) 基本的生活習慣の確立 ○活動指標:保健だよりによる啓発、年間10回以上 ○成果指標:生活アンケートにおいて「朝食をとる」50%以上、「0時までには就寝する」50%以上  (3) 学習意欲の向上・授業を大切にす意識づけのための取組 ○活動指標:校務支援システムによる出欠管理と日常的な出席促進指導を行う ○成果指標:学び支援受講者数の減少(のべ500人以下)  (4) 基礎学力の向上・わかりやすい授業のための工夫 ○活動指標:授業公開・授業改善日を設定し(年間 5 日)、生徒からの授業評価を行う ○成果指標: ・生徒の授業満足度評価(4段階評価) 70%以上  (5) 授業規律の確立 ○活動指標: ・非常勤講師も含め、出席・授業態度等の授業規律について教員間で意思統一を図り、全教員で一致して指導を行う ・学びノートの活用と定着 ○成果指標: ・単位修得率 80%以上	(1) 特別指導件数は昨年度と比較しても横ばい傾向にある。授業態度や学校内外での喫煙やゴミのポイ捨てや交通のマナーについては改善にいたっておらず、今後の課題。 (2) 保健だよりを毎月発行しており、達成見込み。12月のアンケートでは「朝食をとる」59.5%、「0時までには就寝する」40.5%。いずれも6月の時点よりやや悪化した。 (3) 5分遅刻がなくなり、多くの生徒が、休み時間と授業時間の区別がつくようになった。生徒の遅刻が減少した。 ・学び支援受講者のべ223人(前期) (4) 授業公開等を通じて教員間で授業を見せ合う環境を整えていき、授業改善を図る。 ・授業満足度評価 474.3% (5) ・学びノート所持 53.2% ・単位修得率 77.4%(前期)	※ ◎ ※ ※

<p>② 自他を尊重する人権意識と自己有用感を高め人間関係形成能力の育成 (人権教育) (生徒指導)</p>	<p>(1) 自他を尊重する人権意識や自己有用感に裏付けられた自尊感情の涵養 ○活動指標:面談による個人相談を年5回実施 ○成果指標: いじめ認知件数3件以下</p> <p>(2)命を大切にする教育の充実 ○活動指標:アンガーマネジメントやセルフコントロールトレーニング・人権を大切にするをテーマにした講演会やワークショップを前期、後期各1回以上実施する。 ○成果指標:100%実施</p> <p>(3) 人間関係形成能力の育成 ○活動指標:なかまづくりを目的とした学校行事を年4回実施 ○成果指標:アンケート調査における満足度が各回とも75%以上</p>	<p>(1)面談による個人指導によりきめ細かな支援ができた。いじめ認知件数は1件であった。当該生徒には丁寧な指導と配慮を行ったが、指導や情報共有等で改善の余地あり。 (2)アンガーマネジメントやセルフコントロールトレーニングなどを学年単位で生徒の発達に合わせて実施した。 (3)生徒会役員の積極的な取り組みにより学校行事も活性化され、行事の満足度は各回とも75%を超えている。</p>	<p>◎          ※</p>
<p>③ 進路保障の充実 (進路指導)</p>	<p>(1) 個々の生徒のニーズに応じた求人開拓 ○活動指標 ・企業訪問および企業説明会での対応企業数 30 社 ○成果指標: ・就職希望者の正規採用増加 昨年比 2 倍 ・卒業予定者の就職希望の求人充足</p> <p>(2)キャリア教育プログラムの構築 リアルな職業観・勤労観を育成するキャリア教育(社会人基礎講座)を計画的に実施する ○活動指標:キャリア教育・社会人基礎知識の指導講座、体験型学習等を年間8回以上実施 ○成果指標:総合学習の満足度 4段階の4 60%以上</p> <p>(3)進学希望者の進路実現ための取り組み ○活動指標:進学希望者の進路実現のための受験科目の教科による個別指導を行う ○成果指標:進学希望者の合格率 100%</p>	<p>(1)70社以上と対応 学校斡旋による就職内定者 1次:3名(昨年0名) 2次:2名(昨年2名) 全就職内定者6名</p> <p>(2)7回実施(校外講師による講演を合併) 平均61%</p> <p>(3)該当教科による個別指導を実施中 希望者すべて合格したが、経済的理由で入学辞退者2名(40%を占める)</p>	<p>◎</p>

<p>④ 特別支援体制の充実、個に応じた生徒指導を推進するために、外部との連携や効果的な支援体制の構築（特別支援教育）（生徒指導）</p>	<p>(1)学校の構造化を推進し、教育環境を整えながら合理的配慮の提供方法を検討する ○活動指標：授業担当者会議、ケース会議の開催 ○成果指標：支援を要する生徒の「個別の教育指導計画」100%作成</p> <p>(2) 関係機関と連携した生徒指導の充実 ○活動指標：SSWや関係機関との連携による個々の生徒に応じた適切な生徒指導、支援を行う ○成果指標：月に2回以上のSSWの活用</p> <p>(3)きめ細かな教育支援体制づくり ○活動指標：SCと連携して個々の生徒に適切な支援を行う。 ○成果指標：休学者数の減少(昨年32人)</p>	<p>(1)授業担当者会議・ケース会議とも開催し、個に応じた支援を進めている。個別の指導計画は作成見込み。</p> <p>(2)関係機関、SSWとの連携、特別支援コーディネーター、養護教諭との情報共有を密に行うことにより、生徒に応じた対応をしている。</p> <p>(3)SCとの情報交換を密にしている。心身が不安定な生徒を紹介し、回復を見せている。 休学者は39人と昨年より増加した。</p>	<p>◎</p>
<p>⑤ 地域に貢献できる人材を育成するために、外部教育力の導入及び生徒による地域交流（地域連携）</p>	<p>(1)地域人材を活用した講演会やワークショップの実施 ○活動指標：講演会等の月間1回以上の実施 ○成果指標：生徒の満足度評価4 70%以上</p> <p>(2)地域奉仕活動 ○活動指標：地域清掃奉仕活動を年1回実施する ○成果指標：100%実施</p>	<p>(1)総合学習において、外国の方、障がいのある方、LGBTの方などの講演を聞いた。今年度からアンケートは記述式に変えたので満足度の数値はないが、講演者へのメッセージとしてほとんどの生徒が感謝やよかった旨を書いていた。</p> <p>(2)5月に地域清掃奉仕活動を実施し、全校生徒が参加した。</p>	<p>◎</p>

### 改善課題

- ・教職員の不断の努力によって、生徒は全体として落ち着いたよい雰囲気になってきているので、今後も継続して取り組んでいく。
- ・社会生活を営む上での基本的なマナーや交通マナーを身につけさせる取り組みを粘り強く続けていく。
- ・遅刻が減少したことは今年度の取り組みの成果であった。授業出席率や単位取得率の向上のために、生徒の学習意欲の向上につながる授業改善やキャリア教育の取り組みを一層推進する。
- ・キャリア教育の課題としては、生徒の自尊感情の確立や、社会人として必要な学力・マナー・常識の育成。それと並行して関係機関と連携して定時制への理解を事業所に求めつつ、求人開拓を推進し、生徒の進路保障に努める。
- ・外国につながるのがある生徒の支援体制は教職員全員の理解と協力体制によってかなり推進した。引き続き卒業率や卒業後の進路保障に向けた指導体制の確立が課題である。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>① 生徒や保護者にとって安心安全な教育環境の整備、適切な情報管理、生徒・保護者のニーズの把握、生徒・保護者・地域への情報提供</p> <p>(情報管理) (サービス遵守)</p>	<p>(1) 生徒・保護者のニーズの把握 ○活動指標: 生徒・保護者アンケートの実施 年間 1 回 ○成果指標: 100% 実施</p> <p>(2) 生徒・保護者・地域への情報提供 ○活動指標: ・年 5 回以上メールを配信する ・毎月ホームページを更新する ○成果指標: 100% 実施</p> <p>(3) 学校情報や個人情報の適切な管理 ○活動指標: 情報管理状況点検 年間1回実施 ○成果指標: 100% 実施</p> <p>(4) サービス遵守のための取り組み ○活動指標: コンプライアンス研修 年間 1 回実施 ○成果指標: 100% 実施</p>	<p>(1) アンケートを実施しニーズの把握に努めた。</p> <p>(2) 今年度ホームページの全面リニューアルを実施し、情報を見やすくする工夫を進めるとともに、ツイッターを活用した情報提供を行った。課題としては中学生への情報発信について検討が必要である。</p> <p>(3) 7月に実施した。</p> <p>(4) 1月にコンプライアンス研修を実施した。</p>	<p>※</p> <p>※</p>
<p>② JSLカリキュラムや特別支援教育等に関する研修等の推進、資質向上</p> <p>(研修推進)</p>	<p>(1) 教職員研修の充実 ○活動指標: 「授業力向上のための研修」、「外国人生徒や特別な支援の必要な生徒を指導する力を向上させるための研修」、「命を大切にする教育を推進するためにアンガーマネジメントやセルフコントロールトレーニング等に関する研修」等年間 5 回以上実施 ○成果指標: 100% 実施</p>	<p>(1) 「授業力」「外国人生徒支援」「アンガーマネジメント」「障害者の人権」「コンプライアンス」に関する研修を実施した。特に授業力向上研修を複数回行うことができ有意義な研鑽ができた。</p>	<p>◎</p>
<p>③ 生徒の学習意欲や学力の向上のための、相互参観や研修等教員の授業力向上の推進</p> <p>(授業改善)</p>	<p>(1) 授業改善・教科指導力の向上のための取り組み ○活動指標: 教員の相互参観による「授業見学シート」を活用した相互研修及びアクティブラーニング等授業研修の実施 ○成果指標: 全教員が相互参観を 100% 実施</p>	<p>昨年度よりは教員間での見学シートを導入し、相互参観は増加したが、100%には至らなかった。授業研修を前後期1度ずつ持てたことは大きな成果である。</p>	<p>◎</p>
<p>④ 総勤務時間の縮減や執務環境整備</p> <p>(職員健康管理) (職場環境改善)</p>	<p>(1) 総勤務時間の縮減と環境整備 ○活動指標: ① 休暇の取得昨年比+1日 ② 教職員休養室の環境整備 ○成果指標: ① 全教職員が取得 ② 職員満足度(「職場にホッと一息つける場所がある」昨年平均2.4ポイント)の向上</p>	<p>① 一人当たり昨年度比で2日ほど増加した。</p> <p>② 女性職員休養室にソファベッドを設置したが職員室から遠くて利用しにくいのか、満足度は、2.1ポイントと減少した。職員の要望を取り入れ職員室の環境整備を推進したい。</p>	<p>※</p>

## 改善課題

- ・特別な支援の必要な生徒のために、担当者会議やケース会議などの支援体制ができてきたことで、きめ細かな指導ができている。生徒指導や進路保障においてはS S Wや職場定着サポーターの活用など外部機関との連携によって、生徒にとってよりよい指導体制を構築することができたので、次年度も継続して取り組みを進める。
- ・飯野高校定時制の学習や学校生活、進路情報や前向きな生徒の様子などのプラス面の具体的な情報を中学生にわかりやすく発信していく必要がある。
- ・授業研修会の中で各教員の指導成功事例や指導ノウハウを共有することができた。学習意欲を向上させるための授業改善の取り組みやキャリア教育を一層進める。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"><li>・多様な課題を持つ生徒一人ひとりに応じた丁寧な指導が粘り強く行われていて、全体として落ち着いてきているように思う。今後も継続的な取り組みをしていただきたい。</li><li>・情報発信については、定時制でどんな勉強をしているのかや、進路状況などの具体的な情報を中学生や保護者に向けて発信してほしい。</li><li>・校内生活体験発表会を聞いて、定時制に来て変化した生徒や目標が定まった生徒など前向きに人生を切り開く生徒がいることを実感した。こうしたプラス面を発信していくとよい。</li><li>・取組の指標として、実施率を設定するのではなく、アンケート等の具体的な比較を通じた指標を設定するとよい。</li></ul>
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ol style="list-style-type: none"><li>①教職員が一致して、授業、総合学習の時間や日常の生徒指導などさまざまな教育活動の中で、基本的なマナーや交通マナーなど社会で生きていくための基礎力を育む。</li><li>②生徒の学習意欲を向上させるために授業改善活動と自分の進路を見すえて努力をする態度を養うためキャリア教育の一層の充実を推進する。</li><li>③外部教育力を取り入れたキャリア教育の推進と、求人開拓など外部との連携を進めて進路保障に努めるとともに、社会人としての基本的な教養・学力をつけるための取り組みを一層進める。</li></ol>
学校運営についての改善策	<ol style="list-style-type: none"><li>①中学生や中学校の教員に向けて、飯野高校の定時制の特色などの情報を効果的に発信していくよう努める。</li><li>②授業力の向上、人権教育、キャリア教育などの指導力の向上のための教員研修を充実さらにさせる。</li><li>③教員集団がチームとして機能するために、情報共有を推進し、協働して教育活動にあたれる体制を作る。</li></ol>